

## 東京大学医学部附属病院 放射線部

### 1. 病院の沿革と概要

東京大学医学部附属病院（以下、東大病院）は東京都の文京区の本郷キャンパス内にあります。区全体として歴史のある住宅街で、趣がある日本庭園がいくつも残されています。東大病院は、東京大学本郷キャンパスの一画にあります。

当院の歴史は古く、1858年(安政5年)5月に神田お玉ヶ池種痘所の設立から始まり、度重なる改称や分院、統廃合を経て1947年(昭和22年)10月に現在の東京大学医学部附属病院に改称され、時代に沿った医療水準の中、現在に至っています。また、東京大学には東大病院と東京大学医科学研究所附属病院（港区白金台）の2つの附属病院があります。

当院の病床数は1,226床(2022年4月1日現在)、年間手術件数は11,047件(2021年度)、1日平均外来患者数は2,633人(2021年度)があり大規模病院のひとつと言えます。職員も2022年4月1日現在、医師が1,635名、看護師が1,410名、メディカルスタッフや事務職員などを加えると、総数は4,271名と多くのスタッフで構成されています。

### 2. 放射線部の紹介

東大病院は、外来棟、中央診療棟1、2、入院棟A、Bで構成されており、A棟屋上には、ヘリポートがあります。放射線部は、診断部門の中央診療棟1をベースにMRI部門と核医学部門が地下1階、放射線治療部門が地下3階にあります。

一般撮影部門、CT・血管撮影部門、核・MRI部門、治療部門に分かれており、診療放射線技師以外には、事務補佐員と放射線安全管理室技術専門員で構成されています。業務は、放射線検査に関係する医師を始め、診療検査部の看護師、メディカルスタッフと協力しながら行っています。

一般撮影室は8室、乳房撮影装置2台(含むマンモトーム・予防医学センター)、歯科撮影装置・骨塩定量装置は各1台、消化管透視室は6室、ポータブル装置は28台(病棟各階、手術室:2台)、CT装置は6台(含む救急患者対応:1台)、MRI装置は7台(1.5T:2台3.0T:5台)、血管撮影室は5室(心カテ:3台、汎用型:2台)、Hybrid OR室は1室、PET-CTは2台、サイクロトロンは2台、SPECTは3台、リニアックは3台(含むトモセラピー:1台)、ガンマナイフは1台、RALSは1台あります。



MRI 装置(3.0T)



PET-CT 装置



乳房装置(ステレオガイド下生検)



リニアック装置(放射線治療)

診療放射線技師の初期教育として、約1年半で救急業務に対応できるように最低限必要な知識と技術を習得してもらう教育プログラムを行っています。非常に高度な技術が要求されるため大変ですが、得るものも大きいと考えています。その後は、各部門における経験を積んで知識と技術を探求しながら社会貢献できる人材育成をひとつのテーマとしています。また、近年では全国の国立大学病院のネットワークを利用して、各大学間で短期研修制度を行っています。大学間における放射線部門の情報交換や業務評価を行いながら、放射線技術の有効利用や業務改善と人材育成を進めています。

### 3. 大学病院の診療放射線技師のあり方

国立大学附属病院長会議のグランドデザインでは、診療、教育、研究、国際化、地域貢献、運営、歯科の7項目が謳われています。この中で、大学病院の診療放射線技師として、特に注目すべき項目は診療、教育、研究、国際化、地域貢献と考えています。放射線技術は日進月歩であり、最近では高度な技術が臨床現場から求められます。技術水準の維持、向上は必須となっています。また教育では、初期教育を始め、臨床実習の学生への指導ができる人材が求められます。研究においては、高度な先進医療の技術開発となる研究発表から論文の発信ができる人材が必要になります。国際化では、最低英語が求められる時代になっています。海外での学会に英語で発表は当然ながら英語論文は当たり前の時代になっています。

将来的には海外で診療放射線技師として働く方や海外で研究職として活躍する人材育成も重要に思います。地域貢献として、大学病院で得た高度な知識や技術を使って、社会に貢献できることが求められます。現在、東大病院放射線部では、将来の診療放射線技師のあり方をテーマに人材育成に取り組んでいます。誰もが初めからすべてを出来る人はいません。疑問を感じて持続的にひとつずつ解決する人材を求めています。

#### 4. 当部の研究活動について

当部では「研究者マインドの醸成」を目指し、①外部資金を獲得する、②放射線に関する研究発表：5 演題以上、③放射線に関する研究論文：2 論文以上を年度内の目標に掲げています。

2021 年度は外部資金として、科学研究費補助金は 10 件（代表 5 件、分担 5 件）、研究発表は 19 件（国際学会 筆頭発表 1 件、共同研究者 1 件、国内学会 筆頭発表 7 件、共同研究者 2 件、国内研究会 筆頭発表 8 件）、研究論文は 14 編（英文誌 共同研究論文 12 編、和文誌 共同研究論文 2 編）、2022 年度（2 月 1 日までの集計）は、科学研究費補助金は 11 件（代表 5 件、分担 6 件）、研究発表は 14 件（国際学会 筆頭発表 1 件、共同研究者 1 件、国内学会 筆頭発表 8 件、国内研究会 筆頭発表 4 件）、研究論文は 9 編（英文誌 共同研究論文 9 編）でした。これらは当部に所属する診療放射線技師（医師を除く）の実績です。研究の遂行には診療放射線技師が単独で行うものもありますが、医師や他職種との連携によって達成されているものもあり、分野は多岐に渡ります。

当部では本人の申請および大学の承認によって研究者番号を取得し、科学研究費補助金等の取得によってさらに研究を進める環境があります。また、医師や他職種との連携も可能であり、臨床に加えて研究においても社会に貢献できる人材を求めています。

（作成：2022 年度版）